

稲作情報 (Vol.2)

令和7年6月5日
 石巻地方米づくり推進本部
 宮城県石巻農業改良普及センター
 TEL:0225-95-7612 FAX:0225-95-2999
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-n/>

4～5月の気象経過

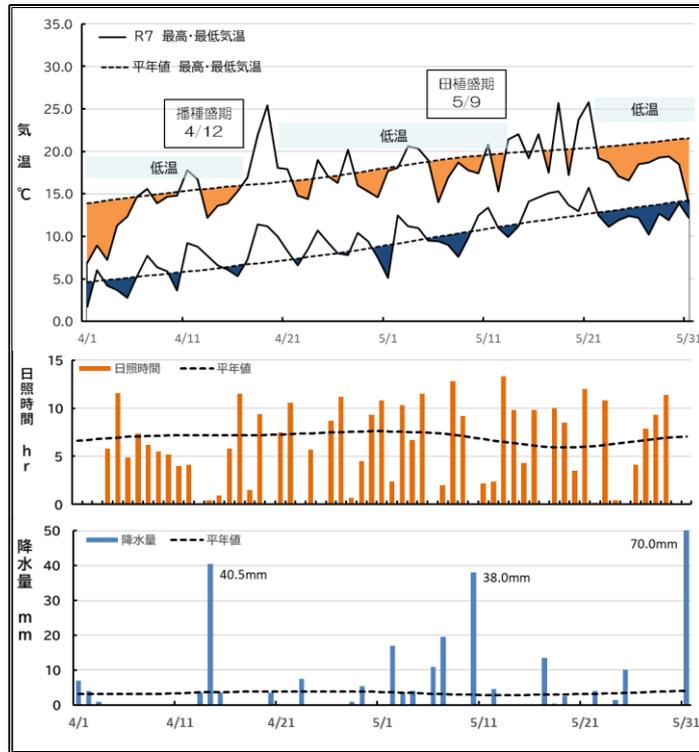


図1 4月以降の気象経過（アメダス石巻）

- ◎ 平均気温は、4月、5月ともに過去5カ年平均より低温となりました。特に4月上旬、5月下旬は平年より1.4～1.5℃低い気温となりました。
- ◎ 日照時間は、4月は平年比26～91%と少照となりました。5月は第1、4半旬のみ平年を上回りましたが、それ以外は平年比67～80%と少照傾向となりました。
- ◎ 降水量は全般的に少雨でしたが、定期的にとまとった降雨がありました。4月の降水量は14日に40.5mmのとまとった降雨がありましたが、その後は降雨がなく少雨傾向でした。5月は10日に38.0mm、31日に70.0mmの降雨があり、その他の期間も多雨傾向となりました。

播種・田植の概況

- ◎ 管内の播種は、平年より2日遅い4月3日が始期、3日遅い4月12日が盛期、1日遅い4月22日が終期となりました（表1）。
- ◎ 田植盛期は平年より1日遅い5月9日となりました。また、県全体では、平年より1日遅い5月12日でした（表2）。

表1 播種状況

	始期 (5%)	盛期 (50%)	終期 (95%)
石巻管内	4月3日	4月12日	4月22日
平年差	2日遅い	3日遅い	1日遅い
前年差	2日遅い	1日遅い	2日遅い
宮城県	4月4日	4月12日	4月21日
平年差	2日遅い	1日遅い	同じ
前年差	1日遅い	1日遅い	同じ

※1：播種の始期、盛期、終期は作付面積比でそれぞれ5%、50%、95%が播種された時期
 ※2：平年値は、過去10か年から最も早い年と遅い年を除いた8か年の平均

表2 田植状況

	始期 (5%)	盛期 (50%)	終期 (95%)
石巻管内	5月3日	5月9日	5月22日
平年差	1日遅い	1日遅い	2日遅い
前年差	同じ	同じ	同じ
宮城県	5月5日	5月12日	5月24日
平年差	1日遅い	1日遅い	2日遅い
前年差	1日遅い	1日遅い	同じ

※1：田植の始期、盛期、終期は作付面積比でそれぞれ5%、50%、95%が田植された時期
 ※2：県平年値は、過去10か年から最も早い年と遅い年を除いた8か年の平均

水稻生育調査ほ・展示ほの生育状況（6月2日現在）

草丈は平年並み、葉数はやや少なめ～平年並み

◎ 4月は気温が低く推移したことから、移植時の草丈は平年より短めで、葉数も平年より少なめでした。6月2日の草丈は17.7cm～27.7cmで、ほ場によってばらつきはありますが、おおむね平年並みです。田植日が平年よりも4日遅い桃生ササニシキは短めでした。

茎数はほ場によって多少の差があり、ひとめぼれでは88～113本/m²と少なめで、ササニシキ・つきあかりでは94～174本/m²と多めになっています。

葉数は4.8～5.1枚と、概ねやや少なめ～平年並みとなっています。4月、5月の平均気温が平年よりも低かったことが影響していると推察されます。

◎ 乾田直播栽培は4月の気温が低く推移したこともあり、4月7日播種のササニシキ、3月26日播種のひとめぼれともに出芽揃日が平年よりも3～4日遅くなりました。苗立数は115～176本/m²と平年を上回っています。

6月2日調査では、ササニシキ、ひとめぼれともに平年と比較して、草丈は短く、茎数は多く、葉数は少なくなっています。

表3 生育調査ほの調査結果（6月2日現在）

品種名	地区名	田植月日	田植時			6月2日			備考
			草丈(cm) (平年比)	葉数(枚) (平年差)	植付本数 (本/m ²) (平年比)	草丈(cm) (平年比)	茎数 (本/m ²) (平年比)	葉数(枚) (平年差)	
ひとめぼれ	石巻市河南	5/7 (+3)	14.8 (111%)	3.0 (-0.3)	77 (82%)	27.3 (110%)	88 (72%)	4.9 (-0.9)	平年比・差は参考値
ひとめぼれ	東松島市矢本	5/8 (+2)	14.7 (96%)	2.3 (-0.5)	80 (79%)	25.2 (110%)	113 (92%)	5.1 (-0.4)	
ササニシキ	石巻市桃生	5/16 (+4)	11.1 (85%)	2.6 (-0.0)	90 (105%)	17.7 (78%)	97 (89%)	4.8 (-0.0)	
ササニシキ	石巻市稲井	5/9 (+0)	13.5 (82%)	2.3 (-0.1)	112 (132%)	21.4 (99%)	152 (151%)	5.0 (+0.1)	
つきあかり	石巻市河南	5/9 (0)	15.3 (84%)	2.6 (-0.6)	92 (158%)	27.7 (96%)	94 (142%)	4.9 (-0.6)	○は前年比・差

品種名	地区名	播種日 (平年差)	出芽揃日 (平年差)	苗立率 (%) (平年差)	苗立数 (本/m ²) (平年比)	6月2日			備考
						草丈(cm) (平年比)	茎数 (本/m ²) (平年比)	葉数(枚) (平年差)	
乾直ササニシキ	石巻市河南	4/7 (+4)	5/8 (-4)	90.6 (+14.6)	176 (125%)	13.9 (64%)	184 (101%)	3.8 (-1.2)	
乾直ひとめぼれ	石巻市桃生	3/26 (-10)	5/10 (-3.0)	66.6 (+10.1)	115 (110%)	12.0 (95%)	124 (106%)	2.9 (-1.7)	○は前年比・差

※平年値は前5カ年平均値。田植日、播種日、出芽揃日の+は遅いことを、-は早いことを示す。



写真1 河南ひとめぼれ（6月2日）



写真2 北村つきあかり（6月2日）

今後の管理

1 水管理

- ◎ 活着後は、地温が最も高くなる3cm程度の浅水で管理し、分けつの発生を促しましょう。なお、極端な低温が続くと予想される場合には、水深をできるだけ深めにし、イネを低温から保護しましょう。
- ◎ 生わらや牛ふん堆肥等の未熟な有機物を多用している水田では、気温の上昇とともに有機物の分解が盛んになり、イネに有害な硫化水素等のガスが発生しやすくなります。このような場合には、中耕や一時的に落水するなど土壌中に酸素を供給し、根の障害を防ぎましょう。特に近年は高温が続く場合があるので、常時湛水は避けるなど根の健全化を心がけましょう。
- ◎ 除草剤を使用する場合は、使用上の注意事項をよく読み、除草剤ごとに定められた使用時期、使用量及び適切な水管理に努めましょう。

2 いもち病対策 ～ 補植用残苗は直ちに処分を！～

- ◎ 県内で発生する本田いもち病の発生源のほとんどは「補植用残苗」です。補植用残苗は速やかに処分しましょう。
- ◎ 個人防除で葉いもち予防剤などを本田施用する場合は、田植時期の早い遅いにかかわらず6月15～20日頃に施用し、処理後7日間は落水しないようにしましょう。

(※JAいしのまき環境保全米及びS基準では箱処理剤が指定されていますので注意)

- ◎ 飼料用米や直播栽培など箱処理剤を使用していないほ場では、周辺ほ場の伝染源にならないよう、いもち病予防剤による防除を行いましょ。



写真3 ほ場の補植用残苗



写真4 補植用残苗の葉いもち

3 害虫対策

- ◎ 今年のイネミズゾウムシの発生量及び発生時期は平年並みとなっています。(6月4日 県病害虫防除所発表)
- ◎ イネミズゾウムシ、イネドロオイムシの防除対策は次のとおりです。
 - <箱施用剤を使用した場合> 本田での防除は必要なし
 - <箱施用剤を使用しなかった場合> 次の「要防除密度」により防除の実施を判断する
(※ JAいしのまき環境保全米及びS基準等では、使用できる農薬に制限があるので、防除を行う場合は、JAに相談願います。)

【要防除密度】

イネミズゾウムシ : 侵入盛期(予想5/26~31):けい畔際2m程度の成虫密度:100株当たり140頭(晩期栽培は70頭)

イネドロオイムシ : 侵入盛期 :成虫密度:100株当たり25頭,
又は産卵最盛期:卵塊密度:100株あたり80個

4 乾田直播栽培の管理

ほとんどのほ場では5月中旬までに出芽揃いとなり、入水が始まっています。入水後の初中期一発剤を散布する際には、残草している草種や幼齡を確認し、適切な除草剤を選定してください。

水管理は移植栽培と同様に浅水管理としましょう。特に苗立数が不足気味のほ場では浅水管理を徹底し、地温を上昇させ分けつの発生を促しましょう。

漏水している場合には除草剤の効果が十分得られず、適切な浅水管理も困難となることから分けつの発生にも影響が出ますので、確認の上、穴を塞ぐなど漏水対策を徹底しましょう。

東北地方1か月予報

(6月7日から7月6日までの天候見通し)

令和7年6月5日仙台管区气象台 発表※抜粋

<特に注意を要する事項>

期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。

<予想される向こう1か月の天候・気温>

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。平均気温は、高い確率80%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	10	10	80
【降水量】	東北太平洋側	30	30	40
【日照時間】	東北地方	40	30	30

<気温経過の各階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1週目	東北地方	10	10	80
2週目	東北地方	10	20	70
3~4週目	東北地方	10	30	60

春の農作業安全確認運動実施中!

令和7年3月1日から令和7年6月30日まで

重点推進テーマ 徹底しよう! 農業機械の転落・転倒対策

宮城県農薬危害防止運動実施中!(6月1日から8月31日)

宮城県では、6月から8月にかけて、農作物等の病害虫が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底し、農薬の販売、使用方法、性質に関する正しい知識及び関係法令等の周知を図ることで、農薬による事故等の発生を防止し、本県産農産物の「食の安全・安心」を確保することを目的に運動を実施しています。

農作業中の熱中症を予防しましょう!!

夏に向けて、農作業中に熱中症になる人が増えてきます。

熱中症は正しい知識を身につけることで、適切に予防することが可能です!!

予防のポイント

暑さを避ける

高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業



こまめな休憩と水分補給

喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給



単独作業は避ける

複数名で作業を行う、時間を決めて連絡をとり合う



熱中症対策アイテムの活用

帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機の活用



熱中症対策アイテム

身体を冷やす

暑い時間帯の作業等が避けられないときに活躍



ファン付きウェア、ネッククーラー

1人作業の備え

やむを得ず1人作業をする際のリスクを回避したいときに活躍



ウェアラブル端末、応急セット

環境改善

作業場を涼しくしたり、休憩の質を高めたいときに活躍



ミストファン